

【問1】

医薬品の本質に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- b 医療用医薬品は、一般用医薬品と比較して、保健衛生上のリスクは相対的に低いと考えられる。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報を伴わなければ、単なる薬物にすぎない。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は、全て解明されている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問2】

医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- b 薬事法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物の混入、変質等がなくてはならないと規定している。
- c 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、常に医薬品に対する新しい情報の把握に努める必要がある。
- d 一般用医薬品は、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されているため、その販売に際し専門家による情報提供は行わなくともよい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問3】

医薬品の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬物が、生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- b 医薬品を十分に注意して適正に使用した場合であっても、副作用が生じることがある。
- c アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こりうる。
- d アレルゲンとなりえる医薬品の添加物としては、黄色4号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩等が知られている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問4】

第1欄の記述はアレルギーに関するものである。（ ）の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

塩化リゾチームは、（ ）アレルギーの既往歴がある人では使用を避ける必要がある。

第2欄

- 1 乳      2 小麦      3 でんぷん      4 鶏卵      5 ゼラチン

【問5】

一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 効果が緩和なので、過量に摂取しても急性中毒が生じる危険性はない。
- 2 習慣性、依存性がある成分が含まれているものはない。
- 3 一般的に風邪等の症状がひどいときは、適正使用量より多めに服用した方がよい。
- 4 乱用の繰り返しによって、慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。

【問6】

食品と医薬品の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 食品と医薬品の相互作用は軽微なものが多いことから、その医薬品と相互作用を生じるおそれのある食品の摂取を制限する必要はない。
- 2 食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在することがあるために、それらを含む医薬品と食品を一緒に服用すると過剰摂取となるものもある。
- 3 保健機能食品は、医薬品との相互作用は起こさない。
- 4 アルコールは主として肝臓で代謝されるため、酒類をよく摂取する人では、肝臓の代謝機能が低下していることが多い。

【問7】

医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- b 生薬成分については、医薬品的な<sup>ぼう</sup>効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品として流通可能なものがあり、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- c 緩和を図りたい症状が明確な場合でも、その後の新たな症状発現のリスクを減らす観点から、なるべく幅広い症状に対応できるように、さまざまな成分が配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- d 医療機関で治療を受けている場合は、一般用医薬品を併用しても問題ないかどうか、医師等に確認する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問8】

医薬品の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品では、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分が配合されていることは少ない。
- 2 アレルギー用薬とかぜ薬では、成分や作用が重複することが多い。
- 3 通常、同じ薬効成分が重複しなければ、相互作用は起こらない。
- 4 相互作用では、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。

【問9】

小児の医薬品使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般的に小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の作用は減弱する。
- b 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が長いため、服用した医薬品の吸収率が高い。
- c 乳児では、循環血液中に移行した医薬品の成分が血液脳関門により防御されるため、中枢神経系の副作用は起こりにくい。
- d 乳児において、塩化リゾチームを初めて摂取したときに、アナフィラキシーが現れたとの報告があるため、乳児に服用させた後はしばらくの間、容態を観察することが重要である。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問10】

小児の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目に付く場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。
- b 乳児は状態が急変しやすく、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくいいため、一般用医薬品による対処は最小限にとどめることが望ましい。
- c 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため、小児に対して使用しないことなどの注意を促しているものもある。
- d 成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避けるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	誤	正

【問11】

高齢者の医薬品使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において高齢者という場合には、おおよその目安として75歳以上を指す。
- b 高齢者は、基礎体力や生理機能に個人差はあるが、使用についてはその年齢で一律に判断し情報提供や相談対応を行うことで差し支えない。
- c 高齢者にかぜ薬を販売する場合、基礎疾患がなく日頃健康な身体状態が保たれていれば、通常の成人と同様の対応で問題ない。
- d 高齢者は、嚥下障害を持つ場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問12】

高齢者の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は基礎疾患を抱えていることが多く、医師などから薬を処方されている場合もあるが、一般用医薬品を併用しても、用法用量どおりに使用していれば、基礎疾患の症状悪化や治療の妨げになることはない。
- b 高齢者では、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすい傾向があり、家族や周囲の人の理解や協力も含め、医薬品の安全使用の観点からの配慮が重要となることがある。
- c 一般用医薬品の用法用量は、使用する人の生理機能の個人差をある程度見込んで設定しているので、高齢者であっても基本的には定められた用量の範囲内で使用されることが望ましい。
- d 高齢者は、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合等があるので、情報提供や相談対応においては特段の配慮が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問13】

妊婦及び妊娠していると思われる女性に対する医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胎盤には、胎盤関門があり医薬品成分の胎児への移行が防御されるため、母体が医薬品を使用しても胎児には影響がない。
- b ブロムワレリル尿素を含む一般用医薬品は、胎児障害の可能性があるので使用を避けることが望ましい。
- c 妊婦は、体の変調や不調を起こしやすいが、軽い不調であれば一般用医薬品で症状を緩和することが望ましい。
- d 便秘薬には、その配合成分や用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問14】

薬事法第25条で規定される一般用医薬品の定義について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が( a )のものであって、( b )その他の医薬関係者から提供された情報に基づく( c )の選択により使用されることが目的とされているもの。

	a	b	c
1	著しくない	薬剤師	需要者
2	緩やかな	薬剤師	販売者
3	緩やかな	薬剤師	需要者
4	著しくない	医師	販売者
5	緩やかな	医師	需要者

【問15】

医療機関で治療を受けている人の一般用医薬品の使用に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、薬局で交付された薬剤を使用している人への一般用医薬品との併用の可否を判断することが義務付けられている。
- b インターフェロン製剤で治療を受けている人が小柴胡湯<sup>しょうさいこうとう</sup>が配合されたかぜ薬を使用した場合、間質性肺炎が現れるおそれがある。
- c 生活習慣病等の人が一般用医薬品を使用することによって、その症状が悪化したり治療が妨げられることはない。
- d 腎臓病の治療を受けている人がアスピリンを使用した場合、むくみ等の症状が現れ腎臓病を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問16】

医薬品の品質に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 適切な保管・陳列をすれば、品質の劣化は起こらない。
- 2 使用期限は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- 3 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されているので、保管温度の管理は不要である。
- 4 医薬品に配合されている成分には、光(紫外線)による変質や変敗が起こるものはない。

【問17】

医薬品の販売時に購入者から確認しておきたい事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、又はその家族等が想定されるか。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。
- d その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

【問18】

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟は、血液製剤の投与を受けたことによりCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJDはウイルスの一種であるプリオンが原因とされる。
- c CJDはプリオンが脳の組織に感染し、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺は上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。
- d CJD訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤



【問19】

サリドマイドに関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

サリドマイド訴訟は、( a )等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の( b )が発生したことに対する損害賠償訴訟である。サリドマイドは、副作用として血管新生を( c )作用がある。

	a	b	c
1	催眠鎮静剤	サリドマイド胎芽症	促す
2	貧血用薬	サリドマイド欠損症	促す
3	貧血用薬	サリドマイド欠損症	妨げる
4	催眠鎮静剤	サリドマイド胎芽症	妨げる
5	催眠鎮静剤	サリドマイド欠損症	妨げる

【問20】

薬害に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、治療上の効能・効果とともに何らかの有害な作用等が生じることがあるが、生物由来医薬品では副作用は起こりにくく、現在までそれが原因となった訴訟は起こっていない。
- b サリドマイド製剤のなかには一般用医薬品として販売されていた製品もある。
- c スモン訴訟は、スモン製剤を使用したことによる薬害事件である。
- d 過去に起こった主な薬害訴訟は、サリドマイド訴訟、スモン訴訟、HIV訴訟、CJD訴訟の順で和解が成立した。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問21】

抗炎症成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ブロメラインは、蛋白質分解酵素で、体内で産生される炎症物質を分解する作用を示す。
- b トラネキサム酸は、体内で炎症物質の産生を抑えることで炎症の発生を抑え、腫れを和らげると考えられている。また、凝固した血液が分解されにくくする働きもある。
- c グリチルリチン酸は、化学構造がステロイド性抗炎症成分と類似していることから、抗炎症作用を示すと考えられている。
- d グリチルリチン酸を大量に摂取すると低ナトリウム血症に伴う、偽アルドステロン症を生ずるおそれがあり、使用する前にその適否を十分考慮するなど、慎重な使用がなされる必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

【問22】

体力が衰えたときのかぜのひき始めに適すとされる漢方処方製剤はどれか。

- 1 葛根湯 かつこんとう
- 2 小柴胡湯 しょうさいことう
- 3 麻黄湯 まおうとう
- 4 桂枝湯 けいしとう
- 5 小青竜湯 しょうせいりゅうとう

【問23】

次の表はあるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

3包中	
イブプロフェン	450mg
グアヤコールスルホン酸カリウム	250mg
d-マレイン酸クロルフェニラミン	3.5mg
無水カフェイン	75mg
ヒベンズ酸チペピジン	75mg
リボフラビン	12mg
d1-塩酸メチルエフェドリン	60mg
アスコルビン酸カルシウム	500mg

このかぜ薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a イブプロフェン ————— 頭痛、咽頭痛<sup>いん</sup>を鎮める
- b d-マレイン酸クロルフェニラミン —— 鼻汁分泌やくしゃみを抑える
- c ヒベンズ酸チペピジン ————— 鼻粘膜や喉<sup>のど</sup>の炎症による腫れ<sup>は</sup>を和らげる
- d リボフラビン ————— 鼻粘膜や喉<sup>のど</sup>の炎症による腫れ<sup>は</sup>を和らげる

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

【問24】

かぜ薬に配合される主な成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェンヒドラミンが配合された内服薬を服用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- b トラネキサム酸は、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用もあり、出血傾向の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。
- c リン酸ジヒドロコデインは、副作用として便秘が現れることがある。
- d 塩化リゾチームは、心臓病、腎臓病又は高血圧の診断を受けた人では、偽アルドステロン症を生じるリスクが高い。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

【問25】

かぜ薬に配合される成分で、まれに重篤な副作用として、無菌性髄膜炎を生じることがある成分はどれか。

- 1 葛根湯
- 2 アセトアミノフェン
- 3 アスピリン
- 4 イソプロピルアンチピリン
- 5 イブプロフェン

【問26】

かぜ薬に配合される主な成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリンは、現在、一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。
- b アスピリン、サザピリンは、一般用医薬品では、小児に対しては、いかなる場合も使用しない。
- c エテンザミド、サリチルアミドは、一般用医薬品では、小児で水痘又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。
- d アセトアミノフェンは、非ピリン系の解熱鎮痛成分で、一般用医薬品では、小児向けの製品はない。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問27】

次の表は筋肉の異常緊張、けいれん、疼痛を伴う、肩こり・腰痛・筋肉痛等を効能とする一般用医薬品に含まれている成分の一覧である。

2錠中	
メトカルバモール	500mg
エテンザミド	300mg
無水カフェイン	30mg
酢酸トコフェロール	30mg
ジベンゾイルチアミン	8mg

この薬に含まれる成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a メトカルバモールは、非ピリン系の解熱鎮痛成分で、痛みを和らげる。
- b エテンザミドは、中枢神経系の刺激反射を抑え、いわゆる「筋肉のこり」を和らげる。
- c 無水カフェインは、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を高める効果を期待して配合されている。
- d ジベンゾイルチアミンは、神経痛、筋肉痛・関節痛などの症状の緩和に用いられている。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問28】

鎮<sup>うん</sup>暈薬の成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 臭化水素酸スコポラミンは、肝臓での代謝が早く、抗ヒスタミン成分と比べ持続時間は短い。
- b 塩酸メクリジンは、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間は短い。
- c 塩酸ジフェニドールは内耳にある前庭神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示し、抗ヒスタミン成分としてよりも専ら抗めまい成分として使用される。
- d ジメンヒドリナートは、テオクル酸ジフェンヒドラミンの一般名で、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗コリン成分である。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問29】

鎮<sup>うん</sup>暈薬に配合される主な成分で、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、小児では使用を避ける必要がある成分はどれか。

- 1 サリチル酸ジフェンヒドラミン
- 2 塩酸メクリジン
- 3 マレイン酸クロルフェニラミン
- 4 臭化水素酸スコポラミン
- 5 テオクル酸プロメタジン

【問30】

次の表はある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

1包中	
スクラルファート	500mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	500mg
ロートエキス	10mg
ソウジュツ乾燥エキス	20mg

この胃腸薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スクラルファート ————— 過剰な胃液の分泌を抑える
- b メタケイ酸アルミン酸マグネシウム —— 中和反応によって胃酸の働きを弱める
- c ロートエキス ————— 過剰な胃液の分泌を抑える
- d ソウジュツ乾燥エキス ————— 胃粘膜の炎症を和らげる

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問31】

次の表はある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

3包中	
合成ヒドロタルサイト	1500mg
カンゾウ末	150mg
アルジオキサ	90mg
ウイキョウ末	90mg
ウルソデオキシコール酸	30mg
ケイヒ末	150mg
ビオチンアスターゼ1000	120mg
ショウキョウ末	90mg
ロートエキス3倍散	90mg

この胃腸薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 合成ヒドロタルサイト ————— 中和反応によって胃酸の働きを弱める
- b アルジオキサ ————— 過剰な胃液の分泌を抑える
- c ウルソデオキシコール酸 ————— 胆汁の分泌を促し、消化を助ける
- d カンゾウ末 ————— 味覚や嗅覚を刺激して反射的な唾液や胃液の分泌を促す

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問32】

胃の薬の成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 胃液分泌抑制成分として、塩化カルニチン、ロートエキスが配合される場合がある。
- b 消化成分として、ビオジアスターゼ、デヒドロコール酸が配合される場合がある。
- c 胃粘膜の炎症を和らげる成分として、メチルメチオニンスルホニウムクロライド、グリチルリチン酸二カリウムが配合される場合がある。
- d 消泡成分として、ジメチルポリシロキサンが配合される場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問33】

次の胃腸鎮痛鎮<sup>けい</sup>痙成分のうち、添付文書で、授乳中の人には「相談すること」とされている成分はどれか。

- 1 臭化メチルベナクチジウム
- 2 臭化ブチルスコポラミン
- 3 塩酸オキシフェンサイクリミン
- 4 臭化メチルオクタトロピン
- 5 塩酸パパベリン



【問34】

胃腸鎮痛鎮痙成分の作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 臭化ブチルスコポラミンは交感神経系に作用し、消化管の運動を抑制する。
- b 臭化ブチルスコポラミンは交感神経系に作用し、胃液の分泌を抑制する。
- c 塩酸ジサイクロミンは副交感神経系に作用し、胃液の分泌を抑制する。
- d 塩酸パパベリンは消化管の平滑筋に直接働き、胃液の分泌を抑制する。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【問35】

次の腸の薬の成分とその作用の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カサントラノール \_\_\_\_\_ 瀉下成分
- b 次硝酸ビスマス \_\_\_\_\_ 止瀉成分
- c ピコスルファートナトリウム \_\_\_\_\_ 瀉下成分
- d ビサコジル \_\_\_\_\_ 止瀉成分

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

【問36】

駆虫薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と条虫である。
- b 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
- c 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- d 駆除した虫体等の排出を促すには、一般的にヒマシ油が使用される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問37】

高コレステロール改善成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ソイステロールはコレステロールの産生を抑える働きがあるとされる。
- b リノール酸はコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c パンテチンは低密度リポ蛋白質（LDL）の分解を促し、高密度リポ蛋白質（HDL）を増加させる効果を期待して用いられる。
- d ポリエンホスファチジルコリンはコレステロールと結合し、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問38】

貧血（貧血用薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 貧血は、その原因により鉄欠乏性貧血、ビタミン欠乏性貧血等に分類される。
- b 亜鉛は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- c 銅は、赤血球産生に必要な不可欠なビタミンB12の構成成分で、骨髄での造血機能を高める目的で硫酸銅が配合される場合がある。
- d マンガンは、糖質・脂質・蛋白質<sup>たん</sup>の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で硫酸マンガンが配合される場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問39】

循環器用薬成分であるユビデカレノンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肝臓や心臓に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
- b 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンAとともに働き、別名をコエンザイムQ10とも呼ばれる。
- c 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされている成分である。
- d 重度の心疾患によって起こる、動悸<sup>き</sup>、息切れ、むくみの症状に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問40】

強心薬に配合される主な成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、<sup>か</sup>嚙んで服用することとされている。
- b ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める作用があるとされる。
- c ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- d ロクジョウは、強心作用のほか、強壯、血行促進の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

【問41】

次の表はある外用痔疾用薬に含まれている成分の一覧である。

1個（2.5g）中	
セイヨウトチノミエキス	13mg
酢酸トコフェロール	15mg
リドカイン	50mg
塩酸テトラヒドロゾリン	10mg
タンニン酸	500mg

この外用痔疾用薬に含まれる成分と、期待される効果・作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a セイヨウトチノミエキス — 止血作用
- b 酢酸トコフェロール ——— 末梢血管の血行を改善する効果
- c 塩酸テトラヒドロゾリン — <sup>かゆ</sup>痒みを和らげる効果
- d タンニン酸 ————— 粘膜の保護、止血作用

- 1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

【問42】

ウワウルシに関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ウワウルシは、( a )を薬用部位として用いた生薬であり、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、( b )効果を期待して用いられる。

日本薬局方収載のウワウルシは、煎薬として( c )、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。

	a	b	c
1	ツツジ科のクマコケモモの葉	尿路の殺菌消毒	残尿感
2	ツツジ科のクマコケモモの葉	膀胱の弛緩	多尿
3	シソ科のコガネバナの根	膀胱の弛緩	多尿
4	シソ科のコガネバナの根	尿路の殺菌消毒	残尿感
5	サルノコシカケ科のマツホドの菌核	排尿痛を抑える	頻尿

【問43】

次の記述に該当する漢方処方製剤として、正しいものはどれか。

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適するとされるが、胃腸が弱く下痢をしやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、胃部不快感、腹痛、のぼせ、動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、4歳未満の小児には適用がない。

- 1 猪苓湯 (ちよれいとう)    2 竜胆瀉肝湯 (りゅうたんしゃかんとう)    3 乙字湯 (おつじとう)    4 芎歸膠艾湯 (きゅうきぎょうがいとう)  
5 牛車腎気丸 (ごしゃじんきがん)

【問44】

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方製剤のうち、構成生薬としてダイオウを含むものはどれか。

- 1 桃核承気湯 (とうかくじょうきとう)    2 四物湯 (しもつとう)    3 五積散 (ごしゃくさん)    4 当帰芍薬散 (とうきしゃくやくさん)    5 温経湯 (うんけいとう)

【問45】

アレルギー用薬の配合成分には複数の重篤な副作用を生じるものがある。次のアレルギー用薬の配合成分のうち、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害及び血小板減少症を生じることがあるものはどれか。

- 1 マレイン酸カルビノキサミン
- 2 フマル酸クレマスチン
- 3 テオクル酸ジフェニルピラリン
- 4 塩酸トリプロリジン
- 5 メキタジン

【問46】

鼻炎内服薬に配合される塩酸プソイドエフェドリンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 依存性がある成分であり、長期間に渡って連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- b 他の同効薬に比べ中枢神経系に対する作用は弱い。
- c 内服薬として摂取された成分は、吸収されて循環血流に入り全身的に作用する。
- d パーキンソン病の治療のため、モノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人は使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問47】

次の記述はきず口の殺菌消毒成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは黄色の色素で、一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対する効果はない。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分は、ヨウ素による酸化作用により結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して、殺菌消毒作用を示す。
- c マーキュロクロムは、一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、ヨードチンキと混合すると真菌、結核菌、ウイルスに対しても殺菌作用を示す。
- d オキシドールは一般細菌類の一部に対して殺菌作用を示し、その殺菌効果は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化及び発生する酸素の泡立ちによる物理的な洗浄効果であるため、作用の持続性は高く、組織への浸透性も高い。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問48】

次の点眼薬における一般的な注意事項の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、未開封の状態におけるものであり、容器が開封されてから長期間を経過した製品は、使用を避けることが望ましい。
- 2 点眼薬1滴の薬液の量は、約50 $\mu$ Lであるのに対して、結膜囊<sup>のう</sup>の容積は100 $\mu$ L程度とされているので一度に2滴の点眼が必要である。
- 3 アドレナリン作動成分が配合されている点眼薬を、連用又は頻回に使用すると、異常なまぶしさを感じたり、かえって充血を招くことがある。
- 4 通常、ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤(塩化ベンザルコニウム、パラオキシ安息香酸ナトリウム等)などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがある。

【問49】

次の点眼薬に配合される成分及びその作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸エフェドリンは、結膜を通っている血管を拡張させて目の充血を除去することを目的として用いられる。
- b イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- c アラントインは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。
- d メチル硫酸ネオスチグミンは、アドレナリンを分解する酵素の働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアドレナリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問50】

次の表はある点眼薬に含まれている成分の一覧である。

15mL中	
アズレンスルホン酸ナトリウム	30mg
コンドロイチン硫酸ナトリウム	15mg
マレイン酸クロルフェニラミン	1.5mg
グリチルリチン酸二カリウム	7.5mg

この点眼薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アズレンスルホン酸ナトリウム — 目の痒み<sup>かゆ</sup>を和らげる
- b コンドロイチン硫酸ナトリウム — 結膜や角膜の乾燥を防ぐ
- c マレイン酸クロルフェニラミン — 目の充血を除去する
- d グリチルリチン酸二カリウム — 比較的緩和な抗炎症作用

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)



【問51】

外皮用薬の剤型と取扱い上の注意の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塗り薬（軟膏<sup>こう</sup>剤、クリーム） — 容器から直接指に取り、患部に塗布することをくりかえすと容器内に雑菌が混入するおそれがある。
- b 貼付剤・パップ剤 ————— 患部やその周辺に汗や汚れ等が付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が向上するほか、剥がれにくくもなるため十分な効果が得られる。
- c 噴霧剤・エアゾール剤 ————— 強い刺激を生じるおそれがあるため、目の周囲や粘膜（口唇等）への使用を避けることとされている。
- d 噴霧剤・エアゾール剤 ————— 同じ部位に連続して噴霧すると、火傷をおこすことがある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問52】

外皮用薬に配合される非ステロイド性抗炎症成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブフェキサマク ————— 湿疹、皮膚炎、かぶれ、日焼け等による皮膚症状の緩和に用いられる。
- b インドメタシン ————— 筋肉痛、関節痛、肩こりに伴う肩の痛み、腰痛、打撲等の痛みの緩和に用いられる。
- c ケトプロフェン ————— 接触性皮膚炎、痒み<sup>かゆ</sup>、かぶれ等の皮膚症状の緩和に用いられる。
- d イブプロフェンピコノール — 腱鞘炎<sup>けんしやう</sup>、肘の痛み、捻挫<sup>ねんざ</sup>等の痛みの緩和に用いられる。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問53】

にきび、吹き出物、みずむし等の基礎的ケアに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 にきび、吹き出物のケアは、洗顔等により皮膚を清浄に保つことが基本とされる。
- 2 みずむし、たむしは古くから知られている皮膚疾患のひとつであり、様々な民間療法が存在するが、それらの中には科学的根拠が見出されないものも多く、かえって症状を悪化させる場合がある。
- 3 とびひは、毛穴を介さずに虫刺されやあせも、掻き傷などから化膿菌が侵入したもので、小児に発生することが多いが、水疱が破れて分泌液が付着すると皮膚の他の部分や他人の皮膚に広がる場合がある。
- 4 みずむし、たむし等は、アクネ菌の繁殖によって起こる疾患であり、みずむしの場合は、毎日石けんで洗う等して清潔に保ちなるべく通気性をよくしておくことが重要である。

【問54】

口腔内疾患及びその治療薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯痛薬は、歯の齶蝕(むし歯)による歯痛を応急的に鎮め、歯の齶蝕を修復する薬である。
- b 内服で用いる歯槽膿漏薬については、同じ又は同種の成分が配合された医薬品(かぜ薬、鎮咳去痰薬、胃腸薬等)が併用された場合、作用が強すぎたり、副作用が現れやすくなるおそれがある。
- c 口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレス、口腔内の不衛生などが要因となって生じることが多いとされる。
- d コラーゲン代謝を改善して炎症を起こした歯周組織の修復を助け、また、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、ビタミンB12が配合されている場合がある。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問55】

歯や口中に用いる薬に含まれる成分とその期待される作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a グリチルリチン酸二カリウム — 局所麻酔作用
- b クレオソート ————— 殺菌消毒作用
- c アミノ安息香酸エチル ————— 抗炎症作用
- d アラントイン ————— 組織修復作用

- 1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

【問56】

禁煙補助剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 主な副作用として、口内炎、喉<sup>のど</sup>の痛み、消化器症状、皮膚症状、精神神経症状などが現れることがある。
- b 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、吐き気、めまい、腹痛などの症状が現れやすく、誤って使用されることがないように留意する必要がある。
- c ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等）との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。
- d 現在、一般用医薬品として流通している禁煙補助剤は、喫煙をやめることなく喫煙回数を徐々に減らしながら使用することとされている。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

【問57】

次の記述は滋養強壯保健薬に含まれるビタミンの作用に関するものである。正しい組み合わせはどれか。

- a 体内の脂質を酸化から守り細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- b 腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- c 体内の脂質を酸化から守る作用を示し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。また、メラニンの産生を抑える働きもあるとされる。
- d 夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

	a	b	c	d
1	ビタミンE	ビタミンD	ビタミンB2	ビタミンB6
2	ビタミンB1	ビタミンA	ビタミンC	ビタミンE
3	ビタミンE	ビタミンD	ビタミンC	ビタミンA
4	ビタミンB1	ビタミンE	ビタミンB2	ビタミンB6

【問58】

第1欄の記述は漢方の考え方に関するものであるが、( )の中に入れるべき字句は、第2欄のどれか。

第1欄

患者の証に基づく考え方とは、( )を虚証と実証に分類し、それに応じて処方を選択する考え方である。

第2欄

- 1 体力    2 症状    3 体質    4 臓器    5 副作用

【問59】

疾病を媒介したり、物を汚染するなどして、保健衛生上の害を及ぼす昆虫等を衛生害虫という。次の1～5のうち衛生害虫はどれか。

- 1 ハチ
- 2 ゴキブリ
- 3 ドクガ
- 4 ドクグモ
- 5 サソリ

【問60】

尿糖・尿蛋白検査薬、妊娠検査薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 尿糖の場合、原則として食前（1～2時間）の尿を検体とし、尿蛋白の場合、原則として寝る前の尿を検体とする。
- 2 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、尿糖・尿蛋白の正確な検査結果が得られなくなることがある。
- 3 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定として尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、その結果だけで妊娠を判断することができる。
- 4 正確な尿等の検査のためには出始めの尿ではなく中間尿を採取することが望ましい。